



# 珠玉の歌劇場が贈る ビゼーの最高傑作!



## 光と影が交錯するスペイン・セビリヤを舞台に 繰り広げられる宿命の愛!

《カルメン》は天下の名作だ。追えば逃げる、逃げれば追う。ビゼーの華麗な音楽に彩られた男と女の永遠の法則は、誕生から150年近くを経た今でも世界中の人々の心を捉えて離さない。〈前奏曲〉をはじめ、誰もがどこかで聴いたことのあるヒットメロディが次から次へと現れるのも《カルメン》の魅力だ。人気オペラにはヒットメロディがつきものだけれど、《カルメン》のヒットメロディは数の多さと質の高さで群を抜く。

マリボール歌劇場が今回披露する《カルメン》は、「光の魔術師」の異名をとる世界的な演出家フィリップ・アルローが、2013年に制作したばかりの美しい舞台。随所で楽しめるマリボールお得意のバレエと共に見所が満載だ。

### あらすじ

舞台は19世紀のスペイン、セビリヤのたばこ工場前の広場。連隊の伍長ドン・ホセは、故郷に帰って許婚のミカエラと結婚することを夢見るまじめな男。そんなホセの前に、奔放なジプシー女のカルメンが現れた。ホセを気に入ったカルメンは、男たちの前で媚態をふりまきながらホセに近づき、花を投げつけて去る。ホセはカルメンに危険な匂いを嗅ぎ取りつつ、花を懐にしまう。喧嘩騒ぎを起こして逮捕されたカルメンを見張るよう命じられたホセは、カルメンに誘惑されて彼女を逃がし、営倉送りになってしまう。一ヶ月後、営倉から出てきたホセは、酒場でカルメンと逢う。だが、再会もつかの間、帰営のラッパに腰を浮かすホセに、カルメンは怒りを爆発させる。そこへ上司のスニガが、カルメン目当てに現れたので、嫉妬心を燃やしたホセは皆と一緒にスニガを拘束。連隊に戻れなくなったホセは、カルメン達ならず者の仲間入りをする。だが、カルメンのような女をつなぎ止めておくのは無理な話だった。カルメンは間もなく、闘牛士のエスカミーリョと恋に落ちる。彼女の心変わりを知ったホセは、エスカミーリョの闘牛の日、会場に現れたカルメンに復縁を迫るが、拒まれて逆上し、隠し持ったナイフを彼女の胸に突き立てる。

### 「カルメン」Carmen

(全4幕/原語上演・日本語字幕付き)  
指揮:サイモン・ロビンソン  
演出:フィリップ・アルロー  
スロヴェニア国立マリボール歌劇場管弦楽団  
合唱団/バレエ団



### 【カルメン】

米オペラ界に彗星のごとく登場、  
人気急上昇中!  
**オクサナ・ヴォルコヴァ**  
人気急上昇中のメゾ・ソプラノ。メトロポリタン歌劇場に出演。日本ではMETライブ・ビューイングの「リゴレット」マッダレーナ役で登場、ゲルギエフ指揮の新作「エフゲニー・オネーギン」ではオリガ役で念願のアンナ・ネトレブコとの共演を果たしている。力強い歌唱、美しい容姿と相まって、理想的なカルメン役として注目を浴びている。

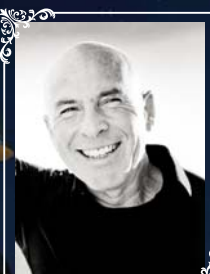


### 【ドン・ホセ】

**ヤベトメ・フェルナンデス**  
フェニーチェ歌劇場など主にイタリアの歌劇場で活躍中。ボローニャ歌劇場では「椿姫」アルフレード役で大成功を取った。端正な顔立ちと相まって人気急上昇中。



**アリヤシュ・ファラシ**  
《カルメン》ドン・ホセ役、「椿姫」アルフレード役等で様々なスロヴェニア国内や海外のフェスティバル、オペラハウスに客演し活躍している。



### 【演出】

**フィリップ・アルロー**  
パリ・オペラ座、パイロイト音楽祭など多くの劇場で演出、舞台美術、照明を手がける。絵画的で、色彩豊か、映画の様な劇的な効果を生む舞台演出は高く評価をされている。



### 【エスカミーリョ】

**ジャック・グレッグ・ペロポ**  
バイエルン州立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場と契約し多数のオペラに出演。チョン・ミョンフン、レヴァイン、メータといった指揮者と度々共演している。



**ヨジェ・ヴィディツ**  
マリボール歌劇場専属ソリスト。レパートリーに「エフゲニー・オネーギン」オネーギンや《魔笛》パパゲーノなどがあり、国内外の著名な指揮者やオーケストラと共演している。

※最終的なキャストは当日発表させていただきます。  
またキャストの一部は変更となる場合がございますので予めご了承ください。

